

コールセンター Q&A

～ コールセンターによく寄せられる質問についてご紹介します ～

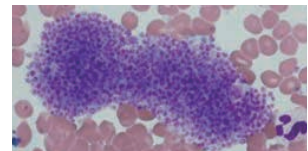
Q106

採取手技は正しく行っているのですが「血小板の凝集が見られます」というコメントが報告されました。どのような要因が考えられますか。

A106

血液一般検査において採取手技に問題が無いにもかかわらず血小板が凝集する場合は、「EDTA 依存性偽性血小板減少症 (EDP)」が疑われます。EDP は生体内ではなく、採血後に採血管内で起こる現象のため病気ではなく、治療は必要ありません。発生頻度は※0.09～0.2%とされています。また血小板凝集は採血後、時間の経過とともに進むため(写真1)、採血直後には血小板凝集は認めません。

※臨床検査法提要 改訂第34版参考



(写真1)血小板凝集像の顕微鏡写真(×400)

【EDP の場合に真の血小板数を測定する方法】

自施設で検査を行う場合	採血後、直ちに生血での測定。
当センターにご依頼の場合	<p>凝固検査用採血管での測定。</p> <p>凝固検査用採血管(蓋:黒色)と血液一般用採血管(蓋:紫色)の2本(写真2)を採血の上、ご提出ください。</p> <p>注)全ての血小板凝集が改善されるとは限らないので予めご了承ください。</p>

【採血管】(写真2)



容器:④ 容器:g

【凝固検査用採血管でご提出の場合の注意点】

- ・末梢血液一般をご依頼の上で、凝固検査用採血管で血小板数の検査を行う指示を、依頼書の通信欄等へご記入ください。
- ・同時に凝固検査もご依頼の場合には凝固検査用採血管を2本以上採血の上、ご提出ください。(センター到着後、凝固検査は速やかに遠心分離し検査を行うため、遠心の影響のある血液一般検査との検体の共用はできません。)

担当 血液・尿一般係

*ウェブページでもご覧いただけます。 <http://www.labo.city.hiroshima.med.or.jp/>

<広報委員> 谷敷 圭美 / 石田 啓 / 栢本 健 / 大田 彩咲日